

文教厚生委員会会議録

- 1 期 日 平成29年2月27日(月)
2 会 場 第2委員会室
3 開会時刻 午前 9時47分
(休憩 午前11時48分～午前11時52分)
4 閉会時刻 午後 0時37分

- 5 出席者 委員長 草賀 章吉 副委員長 小沼 秀朗
委員 大石 與志登 委員 山崎 恒男
" 中上 禮一 " 山本 行男
" 渡邊 久次 " 山本 裕三

当局側出席者 浅井副市長、教育長、健康福祉部長、健康福祉部付参与、
こども希望部長、教育部長、所管課長
事務局出席者 議事調査係 伊藤千恵子

6 審査事項

- ・ 議案第34号 平成28年度掛川市一般会計補正予算(第7号)について
第1条 歳入歳出予算の補正
歳入中 所管部分
歳出中 第3款 民生費
第4款 衛生費(第1項)
第10款 教育費(第5項2目のうち所管外部分を
除く)
- ・ 議案第35号 平成28年度掛川市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)について
- ・ 議案第36号 平成28年度掛川市後期高齢者医療保険特別会計補正予算(第3号)について
- ・ 議案第37号 平成28年度掛川市介護保険特別会計補正予算(第3号)について

- 7 会議の概要 別紙のとおり

以上のとおり、報告いたします。

平成29年2月27日

市議会議長 竹 嶋 善 彦 様

文教厚生委員長 草 賀 章 吉

7 会議の概要

平成29年 2月27日（月）午前 9時47分から、第 2委員会室において全委員出席のもと開催。

- 1) 委員長あいさつ
- 2) 当局（浅井副市長）あいさつ
- 3) 付託案件審査

①議案第34号 平成28年度掛川市一般会計補正予算（第4号）について

第1条 歳入歳出予算の補正

歳入中	所管部分
歳出中	第3款 民生費
	第4款 衛生費（第1項）
	第10款 教育費（第5項2目のうち所管外部分を除く）

第3款 民生費

〔福祉課 説明 09:49～09:59〕

〔質疑 10:00～10:17〕

○草賀章吉委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

○山本裕三委員

51頁、7節、生活保護適正実施推進事業補助金は、どういう目的のものか。

●寺田福祉課長

相談員 2名の非常勤職員雇用している人件費。1名は元袋井市役所勤務していた男性職員。もう1名はブラジル人でポルトガル語ができる職員。今回は、システムリース料等の減額補正である。

○山本裕三委員

他市との比較人数は。

●戸塚福祉係長

同規模の市町であれば、ほぼ同じくらいの体制である。

○小沼秀朗副委員長

143頁 生活保護費が 5,364万円の増だが社会情勢の中で掛川だけでなく、全国的に厳しい状況か。

●寺田福祉課長

生活保護費自体は、リーマンショック以降、全国的に大幅な伸びを示している。それ以後、多少下落はしているが、以前まで戻るところまでっていない。

○小沼秀朗副委員長

徐々に景気が回復しているとの政府の発表があるが、これだけ金額が増えている原因は何か。

●寺田福祉課長

高齢化が進んでいることと、医療費が大幅に伸びている。高齢化が進んで病院にかかる方も増えている。景気が良くなっても、高齢者が増えれば、就労できない方も増えている。まだまだ増えるのではないか。

○山本裕三委員

今回の議会報告会の中でも健康意識格差が経済環境の格差と紐付いているという話があった。一概には言えないが、もしかしたら生活保護を受けている方たちの健康意識の対策が必要なのではないか。医療費の話がでたので対応していただきたい。

●深谷健康福祉部長

医療費の関係と生活保護者の関係だか、生活保護の申請者は、健康状態が悪くなり就労できなくなったことで、申請してくる。健康意識は若い時からもっていくということになれば生活保護には繋がらないということになる。健康意識の醸成は必要だと思う。

○草賀章吉委員長

生活保護費 5年の推移を。年齢構成、どこが増えているのか。 143頁、どういう扶助費が増えているのか。まとめて報告してほしい。

○山本行男委員

生活保護を受けて自立した方もいると思うので一緒に、何人くらいの自立の方があったか。

○草賀章吉委員長

後ほど、ペーパーでお示しを。

●寺田福祉課長

はい。

○中上禮一委員

125頁の難病患者介護家族リフレッシュ事業委託料の事業内容は。

●寺田福祉課長

難病患者宅へのホームヘルパー派遣である。

○中上禮一委員

家族そのものがリフレッシュするものではないのか。

●寺田福祉課長

例えば、家族に難病患者がいらしゃって普段は家族が介護しているが、2時間や半日、冠婚葬祭等の用事ができて家を空けなければいけない時でも使ってもらっている。

○中上禮一委員

かなりの減額だが利用者が少ないのか。

●寺田福祉課長

利用者は限定されている。難病の種類は増えているが、実際は多くない。

○中上禮一委員

あまり周知されていないということか。

●寺田福祉課長

難病患者は手帳の所持はない。保健所で指定を受ける。そこで何らかの説明をしていると思う。問い合わせ時に説明している。

○山本行男委員

300種くらいが認定。国が認定という意味だと思うが、そこから外れている人もいると思う。そういう方が非常に困っているという事も聞く。掛川市で認定は受けていなくて難病だが困っている人はいるのか。

●寺田福祉課長

市では把握していない。あくまでも県の関係となる。

○草賀章吉委員長

指定難病患者が何人いるのか市ではわからないということか。

●寺田福祉課長

はい。

○山崎恒男委員

県が認定、福祉費は市町村、県が事務の一体をやれないのか。

●寺田福祉課長

総合支援法改定され、難病も含むということになったためサービスの提供は、各市町で行う。市町に申請があれば対応するというかたち。

○山崎恒男委員

何種類あるのか。

●寺田福祉課長

306種くらいに増えた。

○山本行男委員

県管轄では、精神も県だと思うが、難病以外、県認定はあるのか。

●寺田福祉課長

身体、知的、精神保健福祉手帳については、県が認定。市は進達するのみ。県からの手帳交付時に、サービスの説明をする。難病は306種。

○山本行男委員

サービスについて知らない人も多い。掛川市独自の介護応援を知らない方がいた。サービスを知らない方もいるためきめ細かなサービス一覧表等があるとよいと思う。行政側の申請主義はもう終わっていて積極的に関わる方法等検討してほしい。

●寺田福祉課長

精神、知的、身体手帳を交付時に、県が作成した冊子のサービス一覧の説明を行っている。また、自宅で目を通していただき、わからないことがあったら、問いあわせていただくよう説明している。20分くらい時間をかけて説明を行っている。

○山本裕三委員

申請は、ふくしあでも行っているのか。

●寺田福祉課長

同じように行っている。

○草賀章吉委員長

以上で質疑を終了する。

[高齢者支援課、説明 10:17~10:25]

[質疑 10:25~10:37]

○草賀章吉委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

○山本裕三委員

131頁、介護保険推進事業費の特別会計繰出金費について、年々増えているのではないかと思うが、今後10年の見通しは立てているのか。

●久野高齢者支援課長

そこまでの見通しを細かくは立てていない。傾向として増えていくことは想定している。来年度は第7期の介護保険事業計画を策定する。今までの実績経過を国が作っているソフトに入れ込む。それによってシミュレーションしていく。繰り出し金も増えるであろうと思っているが今回減額している。

ここ1年、入所者が減り、在宅が増えている。老健等の入所者は空きが多い状態であった。以前は、老健から回復しないで特養に移るパターンが多かったが、最近はリハビリ効果か在宅が増えている。

○草賀章吉委員長

実態はどうか。傾向は。

●久野高齢者支援課長

老健の施設長と意見交換していく中で、回復して自宅に帰る人が多いということ。施設からすると利益が上がらないということもあるが、本来の目的は、老健はリハビリをして自宅に戻る目的の施設であるためいい傾向にある。その他の施設、グループホーム、介護付き老人ホーム、特養も若干の空きがある。全体で120床～130床くらい空いている状況である。

○草賀章吉委員長

介護3以上でなければ入所できないということの影響か。

●久野高齢者支援課長

実態の調査では、ほとんどかわっていない。介護3以下でも特別な事情がある場合には優先入所させている。

○山本行男委員

待機者はいないということか。

●久野高齢者支援課長

特養の待機者はいる。待機者というより前もって希望しますということで手を挙げている方が沢山いる。2箇所3箇所手を挙げているため何百人という形になる。実際に入所時に来て入らない方もいる。そういう方は家族が手を挙げていて、本人が入所したくないこともある。

○山本裕三委員

機能回復に取り組む業者へ行政から、努力した施設に何かしているのか。

●久野高齢者支援課長

介護予防日常生活支援事業が、平成29年度から始まる。介護予防に重点をおきたい。

介護予防をしていかないと介護保険がパンクしてしまうのでそこに力を入れていこうと考えている。その中で、事業者を募っている。老健で介護予防リハビリを行っている。手を挙げていたところには専門事業所より単価を落とした、簡易なお手頃価格でやれる介護予防事業を行いたい。

○山本裕三委員

ぜひ。

○山崎恒男委員

129頁、老人クラブ育成事業費減額だが、シニアクラブの会長と話をしたところ最近会員が減っている。

シニアクラブから地区のクラブそのものが抜けていくという傾向がある。なぜなのか。魅力を持たせる工夫はないのか。

●久野高齢者支援課長

年代ごとに考え方に開きがある。年代ごとの活動計画を考えていただきたいと話し合いでお伝えしている。

○山崎恒男委員

極端に言えば、親子で入ることもある。役員のなり手が無い。役所の手続きが煩わしいと聞く。そういうことも簡素化しながら、何かアドバイス、指導をしていただければ。

●久野高齢者支援課長

確かに補助金申請や実績報告等の手続きが煩わしいと聞く。少しずつ簡素化に向けて協議している。事務局に社会福祉協議会がついているためそちらにお願いして申請書作成のお手伝いをしているところである。若手委員会の方が活躍しているところもある。

○草賀章吉委員長

以上で質疑を終了する。

〔国保年金課 説明 10:37～10:42〕

〔質疑〕 なし

○草賀章吉委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

○草賀章吉委員長

以上で質疑を終了する。

第4款 衛生費

〔保健予防課 説明 10:43～10:47〕

〔質疑 10:47～10:50〕

○草賀章吉委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

○渡邊久次委員

145頁がん検診事業費の減額で、無料クーポン券がなくなったとのことだが。

●榛葉保健予防課長

国事業で、特定の年齢の方40歳から45歳、50歳の5歳刻みの方たちに検診無料としていた。今年度からなくなった。大腸がん検診が無料だった。そのついでに色々なものを受けてきたが、それがなくなって、減となった。

○渡邊久次委員

今年度、大腸がん検診の実数が減ったのか。

●榛葉保健予防課長

原田係長が回答。

●原田成人保健係長

大腸がん検診は700人ほど減。国の事業はなくなったが、40歳だけでも市単独でやりたかったが、予算が通らず実施できなかった。

●榛葉保健予防課長

今年度まだ未確定だが大腸がん検診3,300人の予定、昨年度4,000人受診していた。

- 草賀章吉委員長
以上で質疑を終了する。

[地域医療推進課、説明 10:50～10:52]

[質疑] なし

- 草賀章吉委員長
担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

- 草賀章吉委員長
以上で質疑を終了する。

第3款 民生費

[こども政策課 説明 10:53～10:54]

[質疑] なし

- 草賀章吉委員長
担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

- 草賀章吉委員長
以上で質疑を終了する。

第3款 民生費

第4款 衛生費

第10款 教育費

[こども希望課 説明 10:55～11:19]

[質疑 11:07～11:19]

- 草賀章吉委員長
担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

○山本裕三委員

園児数が減と色々な説明の中であった。0歳児の入園が思ったより少なかったとの理由であったが、その他に原因はあるのか。

●松下こども希望課長

その他の原因は見当たりません。

0歳児が定員 211人のところ、1月現在で 187人と若干余裕がある。これは、育休が取りやすくなり、きりよく 4月の入所を希望される方が多かったことなどが考えられる。

○山崎恒男委員

141頁の待機児童解消対策費について、国基準で 0人と認識している。国の待機児童から外れるが、入所できなかったという人も若干いると聞いている。新年度に向けて、保育園を希望しても実質的に入所できないというケースを予測されているか。

●松下こども希望課長

今年 4月の実質的待機者は 119人、来年度も約 110人はいると考える。これは、求職中の方、幼保併願の方等が含まれている。今後も調整をしていく。

○山崎恒男委員

調整した中でも本当に困っている人はどのくらいいるのか。不満の声もまだ聞こえてくる。

●松下こども希望課長

国定義で考えられる人は現在約 8人いる。年度末まで約 1ヶ月あるので、それまでに入所の調整を図っていききたい。

○渡邊久次委員

関連して。預かってくれるところがあれば仕事したい。親が就労していないと、優先順位が下がってしまう。矛盾がある気がする。潜在的な待機児童はもっともっといっている。そのあたりの市の見通しは。

●松下こども希望課長

入所できたので求職するという方もいるので、求職中の方の捉え方が、いつも非常に難しいと感じている。求職中の方で、入所できない方に関しては、一時預かり等利用していただきながら、求職活動をしていただくよう御案内をしている。認可外保育所を利用していただくことも可能と考える。

○小沼秀朗副委員長

141頁の待機児童解消対策費、年度途中入所サポート事業費補助金、保育所入所円滑化事業費補助金、保育体制強化事業費補助金とあるが、どういった内容なのか。

●松下こども希望課長

年度途中入所サポート事業、保育所入所円滑化事業は、年度当初は 0歳児を中心に、入所児は少ないが、順次入所希望が出てくる。そのために、年度当初から保育士を雇用するための経費となっている。

また、保育体制強化事業は、保育士以外の方を雇用し、保育士周辺の仕事、例として、掃除、洗濯、後片付け、こういったものに携わっていただき、保育士業務のサポートをしていただくための人件費となっている。

○山本行男委員

潜在的ニーズは読み切れない。そういう意味で担当課は大変苦勞していると思う。このことは掛川市だけではなく、どの市町も同じことだと思う。

●高川こども希望部長

議員おっしゃるとおり、全国の自治体で頭を抱える問題である。新しい施設ができると、入所希望者が増える。全国的に、たちごっここの状況である。

施設を新設しただけでは、子どもを預けることはできない。そこで働く保育士確保がますますの課題となっている。

できるだけ、保護者のニーズを把握したいと考えている。

○小沼秀朗副委員長

掛川市は、1歳につき 1,000人位いると考えている。2年間で 444名の枠が広がっている。掛川市は、何歳児に対し何人の枠が確保されているよといった、既存のデータを公表して、他市と比較すれば、掛川は手厚いんだということをPRできると思うので、そういうことに力を入れたらよいと思うが、このようなデータはあるのか。

●高川こども希望部長

議員の意見は、とても参考になるので、データ分析を行っていききたい。

お母さん方の働くをかなえることは、非常に大事なニーズだと思うが、自分で育てるというニーズもあるので、企業にも協力をいただき、確実に 1年は育休を確保できるなどの職場環境になるよう働き掛けをしたい。

○小沼秀朗副委員長

県内全部とは言わないので、浜松、静岡等、近隣のデータがあれば提供を。

●松下こども希望課長

昨年度のものだが、横浜市、浜松市等、大きな市の幼稚園保育園に入園状況を調査したものが

あるので、御提示するものがあれば御案内する。

- 草賀章吉委員長
以上で質疑を終了する。

第10款 教育費

〔学務課、説明 11:20～11:30〕

〔質疑〕 なし

- 草賀章吉委員長
担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

- 草賀章吉委員長
以上で質疑を終了する。

〔学校教育課、説明 11:31～11:33〕

〔質疑 11:33～11:36〕

- 草賀章吉委員長
担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

- 渡邊久次委員

193頁、教育用パソコン整備費のパソコンリース料について、238万9,000円減額とのことだが、パソコンの整備台数はどのくらいか。

- 佐藤学校教育課長

全小学校へ839台整備している。平成28年度については、小学校8校が更新をしている。

- 渡邊久次委員

このパソコンは、生徒が利用するものか。

- 佐藤学校教育課長

パソコン教室があるので、そこに設置している。最近はタブレット型に更新している。基本的にはパソコン室に置くが、授業がある時は持ち出しできるような環境に更新している。

- 渡邊久次委員

パソコンリース料は、タブレットも含めたものか。

- 佐藤学校教育課長

これまでは、据え置き型のパソコンで、パソコン室に置いてあったものを、今後、持ち運び可能なタブレット型に更新しているため、リース料に含まれている。

- 草賀章吉委員長

以上で質疑を終了する。

〔社会教育課、説明 11:36～11:42〕

〔質疑 11:42～11:45〕

- 草賀章吉委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

○大石與志登委員

横須賀城跡管理費がかなり減額されている。年度の買収面積はどのくらいか。また、進捗状況は。

●栗田社会教育課長

公有化を10カ年計画ではじめ 3年目となる。

●鬼澤社会教育課主幹

今年度の公有化面積は 2,748㎡となっている。総公有化面積は 101,939.5㎡、指定面積に対しては、60.52%の進捗率となっている。

○山崎恒男委員

オリンピック等のキャンプ地誘致との説明があったが、可能性としてどのように考えているのか。

●栗田社会教育課長

先日、トランポリンの大会をさんりーなで実施した。掛川市としてはトランポリンの町としてPRしていきたいし、設備も整っているため、さんりーなについては、トランポリンに力を入れていきたい。

6月17日にラグビーワールドカップに関連した試合がエコパで開催される。日本代表の関係者が市内に宿泊し、直前練習として、さんりーなを使用したいと言ってきているので、可能性としては、そこを端緒として広めていきたい。

○草賀章吉委員長

以上で質疑を終了する。

[図書館 説明 11:45~11:46]

[質疑] なし

○草賀章吉委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

○草賀章吉委員長

以上で質疑を終了する。

[討論]

なし

[採決]

議案第34号 平成28年度掛川市一般会計補正予算（第4号）について
全会一致にて原案のとおり可決

[休憩 11:48 ~ 11:52]

②議案第35号 平成28年度掛川市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）について

[国保年金課 説明 11:52~11:59]

[質疑 11:59~12:10]

○草賀章吉委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

○山本裕三委員

退職者医療制度が廃止となったが、退職者被保険者は何人か。また、どういう方が対象なのか。

●太田国保年金課長

社会保険等に20年以上加入した方か、あるいは、40歳を超えて10年以上加入していた方が対象。退職者被保険者数は、平成27年度の平均で 2,079人。ちなみに、一般被保険者は26,222人である。

○渡邊久次委員

2,079人が移行したとのことだが、一般被保険者の 1億 8,600万円のうち、移行に伴う増加分と医療費の他の伸びということでのよいのか。比率はどのくらいか。

●太田国保年金課長

2,079人は、平成27年度の平均の加入者数である。平成26年度から退職者医療費制度は廃止になったので、それまでは、先ほど申した条件を満たすと退職者医療に加入していたものが、直接、一般の保険に加入することになる。人数や医療費は、そのまま一般被保険者としてのカウントになるので、具体的な数字については把握できない。

○渡邊久次委員

一般被保険者療養給付費 1億8,600万円のうち、移行にともなって増えた分と医療費の増えた分の割合は、どうなっているのか。

●佐野国保年金課主幹

金額については、把握していない。先ほど、退職者被保険者数の平成27年度の平均が 2,079人と申しましたが、平成28年度の見込みは 1,291人を見込んでいるので、ほぼ半分減る。新規加入者の減に加え、その分も退職者被保険者から一般被保険者にいくため、一人当たりの医療費が伸びている分に、その移行分が上乗せされて増えるというかたちになる。この分について退職者被保険者は減る、一般被保険者は増えるという補正を行っている。

●太田国保年金課長

一般被保険者の一人あたり療養給付費の見込みは、約 253,000円になる。影響額は、推測だが約 2億円と思われる。

○渡邊久次委員

今 2億とのことだが、補正額は 1億 8,600万円。よくわからないのだが。

●太田国保年金課長

退職者被保険者から一般被保険者に移行することは、当初予算要求時でも見込んでいるが、その見込みよりも増えた分について、医療費の増に加え補正するということである。

○渡邊久次委員

平均が、253,000円ということだが、平均そのものが増えたということではないのか。高額医療費も増えているとのことだが。

●太田国保年金課長

医療費全体的に増えている。高額医療費がことのほか伸びている。

○中上禮一委員

高額医療費が増えているとのことだが、どんな傾向か。どんな病気が多いのか。

●佐野国保年金課主幹

本市の傾向として、心筋梗塞、脳疾患、高血圧などが上位を占めており、心筋梗塞や脳疾患などが高額となる。また、人工透析関係も上位を占めている。

●太田国保年金課長

先ほどの疾患に加え、高額医薬品も使われていることが、更に拍車をかけているのが実状である。

○草賀章吉委員長

以上で質疑を終了する。

[討論]

なし

[採決]

議案第35号 平成28年度掛川市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）について
全会一致にて原案のとおり可決

③議案第36号 平成28年度掛川市後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第3号）について

[国保年金課 説明 12:10 ～ 12:12]

[質疑 12:12 ～ 12:14]

○草賀章吉委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

○草賀章吉委員長

特定健診等事業費の減は、受診者減ということか。

●太田国保年金課長

当初は、受診率向上を目指して、3,700人を見込んでいた。しかし、実績を見ると、200人減の3,500人が受診する見込み。

○渡邊久次委員

人間ドック受診者は、260人から265人と増えている。何かの成果か。

●太田国保年金課長

受診勧奨の通知を送付していることもあるが、高齢化により国保から後期高齢者医療の対象者が増え、その方が引き続きドックを受診することが増加の一因と考えている。

○草賀章吉委員長

以上で質疑を終了する。

[討論]

なし

[採決]

議案第36号 平成28年度掛川市後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第3号）について
全会一致にて原案のとおり可決

.....

④議案第37号 平成28年度掛川市介護保険特別会計補正予算（第3号）について

[高齢者支援課 説明 12:15 ～ 12:25]

[質疑 12:25 ～ 12:37]

○草賀章吉委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いする。

○渡邊久次委員

平成29年度から総合支援事業に移行する。介護予防事業が重要とのことだが、97頁の認定審査会費が減となっている。申請者が減ってきたという事か。総合支援事業移行と関連するのか。

●久野高齢者支援課長

認定者は、ほぼ横ばいである。毎年、更新をかける。審査会は定例的に開催しているが、休会の時もある。休会の回数が増えると減額になる。これは、審査会委員の報酬である。

○渡邊久次委員

100頁、地域密着型介護サービス給費費が、1億7,200万円減とある。先ほどの説明で、事業所の開設が遅れたとあったが、どういうことか。

●久野高齢者支援課長

当初予定していた事業者が、工事が若干遅れ気味になったことから、年度当初に事業開始ができなかった。しかし、何とか1月の開始にこぎ着けた。そういうことによる減額となっている。

○渡邊久次委員

地域密着型介護サービスは、事業所の関係で平成28年度にできず、平成29年度において実施するということか。

●久野高齢者支援課長

平成28年度当初からサービスを実施する予定でいたが、今年度の1月からの実施となった。今年度事業である。

○山本行男委員

よろしければ、事業所の名前を。

●久野高齢者支援課長

おおすか苑。

○山崎恒男委員

直接予算には関係しないが、従業員の取り合いがあり、既存の施設等が立ち行きならない状態になると聞く。介護施設の従業員について、掛川市では大きな問題として捉えなくてもよいのか。

●久野高齢者支援課長

特養では、1年中募集をかけている状況である。小さな施設は一人辞めただけでも、回転していかなくなる。そういった小さな施設を含めて、ほとんどの事業所で従業員を募集している。そういったことから、施設に出向き、施設長に辞める理由の聞き取りをした。そうしたところ、一番の理由は、人間関係が嫌で辞めていく。仕事がきついという理由でやめていく人は少なかった。人間関係がしっかり構築されれば、定着していくのではないか。

施設に入ると、雰囲気わかる。

全体的に人員不足は否めない。

○山崎恒男委員

そのことは、課長が指導できないか。

●久野高齢者支援課長

施設長と面談等はしている。色々な解決策をこまめに行っている。

○山崎恒男委員

待遇面が大きいと思った。施設長中心に工夫してもらい、雰囲気のいい職場にしてもらいたい。

○山本行男委員

施設の運営そのものには行政が入っていけない。1万円が人件費という形で国から処遇改善として助成されてると思うが、市から施設へ指導できないのか。

●久野高齢者支援課長

大きな施設は県が指導する。権限委譲で小さな事業所については、定期的に市で実地指導を行っている。

権限が降りてきたばかりなので、一緒に勉強しながら実施している状況である。

○草賀章吉委員長

以上で質疑を終了する。

[討論]

なし

[採決]

議案第37号 平成28年度掛川市介護保険特別会計補正予算（第3号）について
賛成多数にて原案のとおり可決

4) その他 なし

5) 閉会 午後 0時37分